

# 施工管理基準に基づく様式一覧表

以下の様式は参考様式として示すものであり、国土交通省様式を準用してもよい。

様式番号	品 名
( 出 来 形 管 理 )	
2	出来形管理表(表紙)
2-1	出来形管理表・測定結果一覧表
2-2	測定結果一覧表
3	出来形管理表(図表)
4	度数表
16	鉄筋(ロックボルト工)挿入確認記録表
( 品 質 管 理 )	
5	品質管理表(表紙)
6	調査結果総括表
7-1	現場密度測定試験(現場における土の置換法による単位体積重量の測定)
7-2	現場密度測定試験(突砂法)
8	道路の平板載荷試験(JIS A 1215)
9	プルーフローリング試験
10-1	現場における土の乾燥単位体積重量測定用紙
10-2	下層路盤用クラッシャーランの粒径加積曲線図
10-3	上層路盤用粒調碎石の粒径加積曲線図
11-1	アスファルト合材の管理試験
11-2	基準密度測定表
11-3	配合設計決定表
12	アスファルトの抽出試験(ソックレー法)
13	密度及び厚さの測定表
14	まだ固まらないコンクリートの洗い分析試験
( 品 質 管 理 デ ー タ ー シ ー ト )	
15-1	$\bar{x}$ -R管理データシート(1)
15-2	$\bar{x}$ -R管理データシート(1)の2
15-3	$\bar{x}$ -R管理管理図
15-4	x-Rs-Rm管理データシート
15-5	x-Rs-Rm管理データシート
15-6	x-Rs-Rm管理データシート

様式 2

建設工事名

---

工出来形管理表

種目

---

---

---

---

受注者名

---





建設工事名 \_\_\_\_\_

工出来形管理図表 \_\_\_\_\_

受注者名 \_\_\_\_\_

測定者 \_\_\_\_\_

測点番号	
月 日	
設計値との差 (mm)	
記 事	



様式 5

建設工事名

工 品 質 管 理 表

種 目

受注者名

様式 6

調 査 結 果 総 括 表

調 査 名

調査場所

	調査No.		
試験名			
採取深度 cm			
統一分類記号			
名称			
粒 度 分 析	礫 分 %		
	砂 分 %		
	細 粒 分 %		
	60 % 径 mm		
	30 % 径 mm		
	10 % 径 mm		
	フルイ 通過率 %	4.75 mm	
		2.36 mm	
		0.425 mm	
		0.075 mm	
均等係数 $C_u$			
曲率係数 $C_c$			
物 理 試 験	含水比 %		
	液性限界 LL %		
	塑性限界 P %		
	塑性指数 PI		
変 状 土 C B R	突固め回数 67回	1	
		2	
		平均	
	C B R %		
	最大乾燥密度 $g/cm^3$		
	最大乾燥密度の95%		
	修正CBR 試験	最適含水比%	
		42回	
		92回	
	修正CBR %		



様式 7-1

現場における土の置換法による単位体積重量の測定

調査名、目的		試験日程				年	月	日		
測定箇所および測点番号		試験者								
土の最大粒径		mm		測定器番号						
測定器の体積		cm <sup>3</sup>		測定器の重量		g				
<b>I 試験用砂の単位体積重量の検定</b>										
測定番号		1	2	3	4	5	試験用砂の平均単位体積重量 r st = g/cm <sup>3</sup>			
ジャーとピクノメータートップに砂を満たした重量Wjs		g								
測定器全体の重量Wj		g								
満たした砂の重量 (Wjs - Wj)		g								
ジャーとピクノメータートップとの体積Vj		cm <sup>3</sup>								
試験用砂の単位体積重量 r st		g/cm <sup>3</sup>								
<b>II ロト (ベースプレートを含む) を満たすに要する砂の重量検定</b>										
測定番号		1	2	3	4	5	ロトを満たすに要する砂の平均重量 Wjf = g			
ジャーとピクノメータートップに砂を満たした重量Wjs		g								
ロトを満たした砂を除きジャーに残った砂の重量Wj2		g								
ロトを満たした砂の重量 (Wj3 - Wj2) = Wjf		g								
<b>III 試験孔からとり出した土の湿潤重量、含水比および乾燥重量の測定</b>										
試験孔の番号	湿潤土および乾燥土重量の測定			含水比の測定						
~ 1	容器 (バケツ) の番号			試料箱No.	No.	No.				
	(湿土+バケツ) の重量 g			WW	DW	WW	DW			
	容器 (バケツ) の重量 g			DW	TW	DW	TW			
	湿潤土の重量WwA g			Ww	Ws	Ww	Ws			
	乾燥土の重量Wv g			w = %		w = %		平均含水比 w = %		
~ 2	容器 (バケツ) の番号			試料箱No.	No.	No.				
	(湿土+バケツ) の重量 g			WW	DW	WW	DW			
	容器 (バケツ) の重量 g			DW	TW	DW	TW			
	湿潤土の重量WwA g			Ww	Ws	Ww	Ws			
	乾燥土の重量Wv g			w = %		w = %		平均含水比 w = %		
~ 3	容器 (バケツ) の番号			試料箱No.	No.	No.				
	(湿土+バケツ) の重量 g			WW	DW	WW	DW			
	容器 (バケツ) の重量 g			DW	TW	DW	TW			
	湿潤土の重量WwA g			Ww	Ws	Ww	Ws			
	乾燥土の重量Wv g			w = %		w = %		平均含水比 w = %		
試験孔番号		~ 1	~ 2	~ 3	(予備欄)					
ジャーとピクノメータートップに砂を満たした重量Wj3		g								
ジャーに残った砂の重量Wj3		g								
試験孔およびロトに入った砂の重量 (Wj2 - Wj3)		g								
試験孔に入った砂の重量 (Wj2 - Wj3) - Wjf		g								
試験孔の体積		V cm <sup>3</sup>								
試験孔番号		~ 1	~ 2	~ 3	平均した砂の単位体積重量					
土の湿潤単位体積重量 r t		g/cm <sup>3</sup>		r t = g/cm <sup>3</sup>						
土の乾燥単位体積重量 r d		g/cm <sup>3</sup>		r d = g/cm <sup>3</sup>						
(備考)										
I 砂の単位体積重量: r st = $\frac{(Wj3 - Wj)}{V}$			III 乾燥土重量: Wv = $\frac{WwA \times 100}{100 + w}$							
IV 試験孔の体積: V = $\frac{(Wj2 - Wj3) - Wjf}{r st}$			V 土の湿潤単位体積重量: r t = $\frac{WwA}{V}$							
						土の乾燥単位体積重量: r d = $\frac{Wv}{V}$				

様式 7-2

		現場密度測定試験 (突砂法)		報告用紙	
建設工事名		試験日		年 月 日	
建設工事場所		天 候			
工 種		試験者			
使用材料名					
① 砂の単位体積重量		$g/cm^3$	測 定 番 号		
掘り取った穴の容積	② 試験前の砂の重量	(g)			
	③ 試験後の砂の重量	(g)			
	④ ベースプレスト中の砂の重量	(g)			
	⑤ 穴につめた砂の重量 (②-③-④)	(g)			
	⑥ 掘り取った穴の容積 (⑤/①)	( $cm^3$ )			
	湿潤密度	⑦ (湿潤試料+容器) 重量	(g)		
⑧ 容 器 の 重 量		(g)			
⑨ 湿潤試料重量 (⑦-⑧)		(g)			
⑩ 湿潤密度 (⑨/⑥)		( $g/cm^3$ )			
含水比及び乾燥密度	⑪ (乾燥試料+容器) 重量	(g)			
	⑫ 容器の重量	(g)			
	⑬ 乾燥試料重量 (⑪-⑫)	(g)			
	⑭ 全体含水量 (⑨-⑬)	(g)			
	⑮ 全体含水比 (⑭/⑬×100)	(%)			
	⑯ 乾 燥 密 度 rd	( $g/cm^3$ )			
⑰ 最大乾燥密度 rd	( $g/cm^3$ )				
⑱ 締固め度 (⑯/⑰×100)	(%)				
⑲ 締固め度平均	(%)				
備 考					

様式 8

道路の平板載荷試験 (JIS A 1215)

建設工事名 \_\_\_\_\_

工 種 名 \_\_\_\_\_

測定番号 \_\_\_\_\_

受注者名 \_\_\_\_\_

測定箇所 \_\_\_\_\_

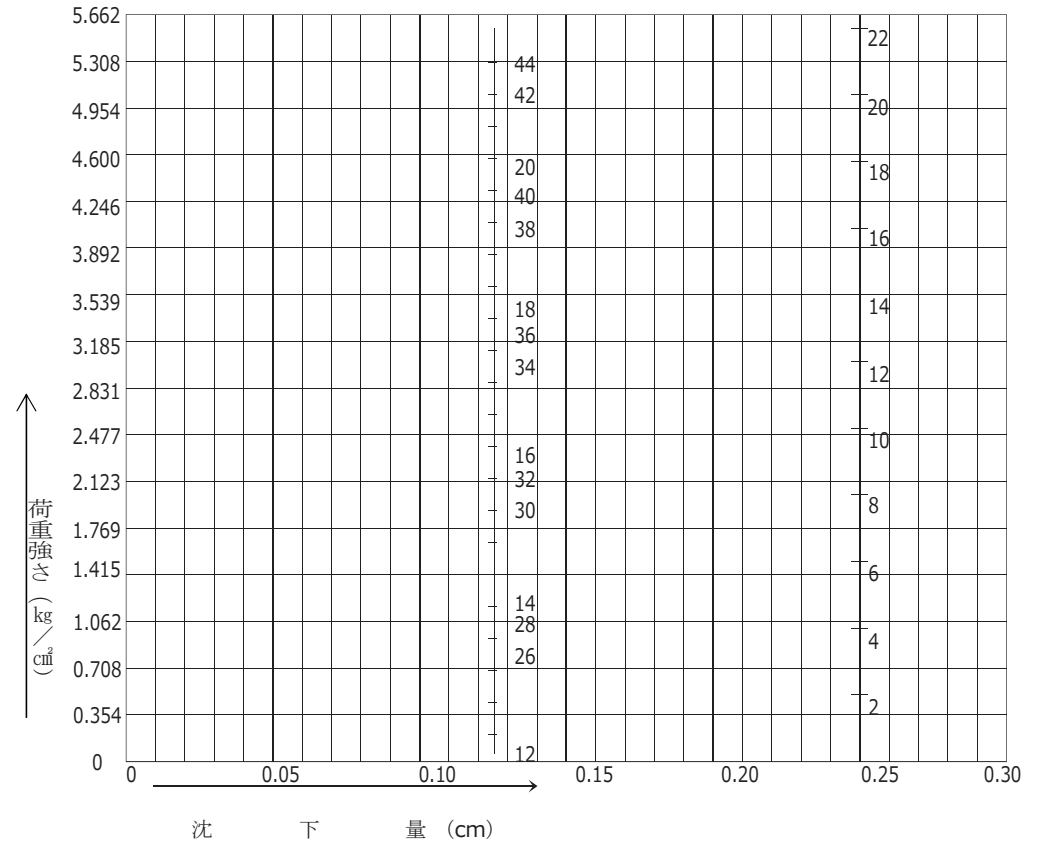
試験期日 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

路面の状態 \_\_\_\_\_

載荷盤直径 \_\_\_\_\_ 載荷盤面積 \_\_\_\_\_

天候 \_\_\_\_\_ 測定者 \_\_\_\_\_

荷 重		沈下量ダイヤルゲージの読み 1/100mm			
全荷重	kg/	左	中	右	平均値
0.250	0.354				
0.500	0.708				
0.750	1.062				
1.000	1.415				
1.250	1.769				
1.500	2.123				
1.750	2.477				
2.000	2.831				
2.250	3.185				
2.500	3.539				
2.750	3.892				
3.000	4.246				



$$K_{30} = \frac{\text{荷重 (kg/cm}^2\text{)}}{\text{沈下量 (cm)}} = K_{75} = \frac{K_{30}}{2.2} \text{ kg/cm}^2$$

様式 9

プルーフローリング試験

建設工事名 \_\_\_\_\_

受注者名 \_\_\_\_\_

工 種 名 \_\_\_\_\_

測 定 者 \_\_\_\_\_

項 目	事 項			備 考
試 験 条 件	天 候		測定面の含水状況	
試 験 区 間	No.		~No.	
載 荷 車 型	式		接 地 圧	
載 荷 状 況	予備载荷回数	回	本载荷速度	km/h

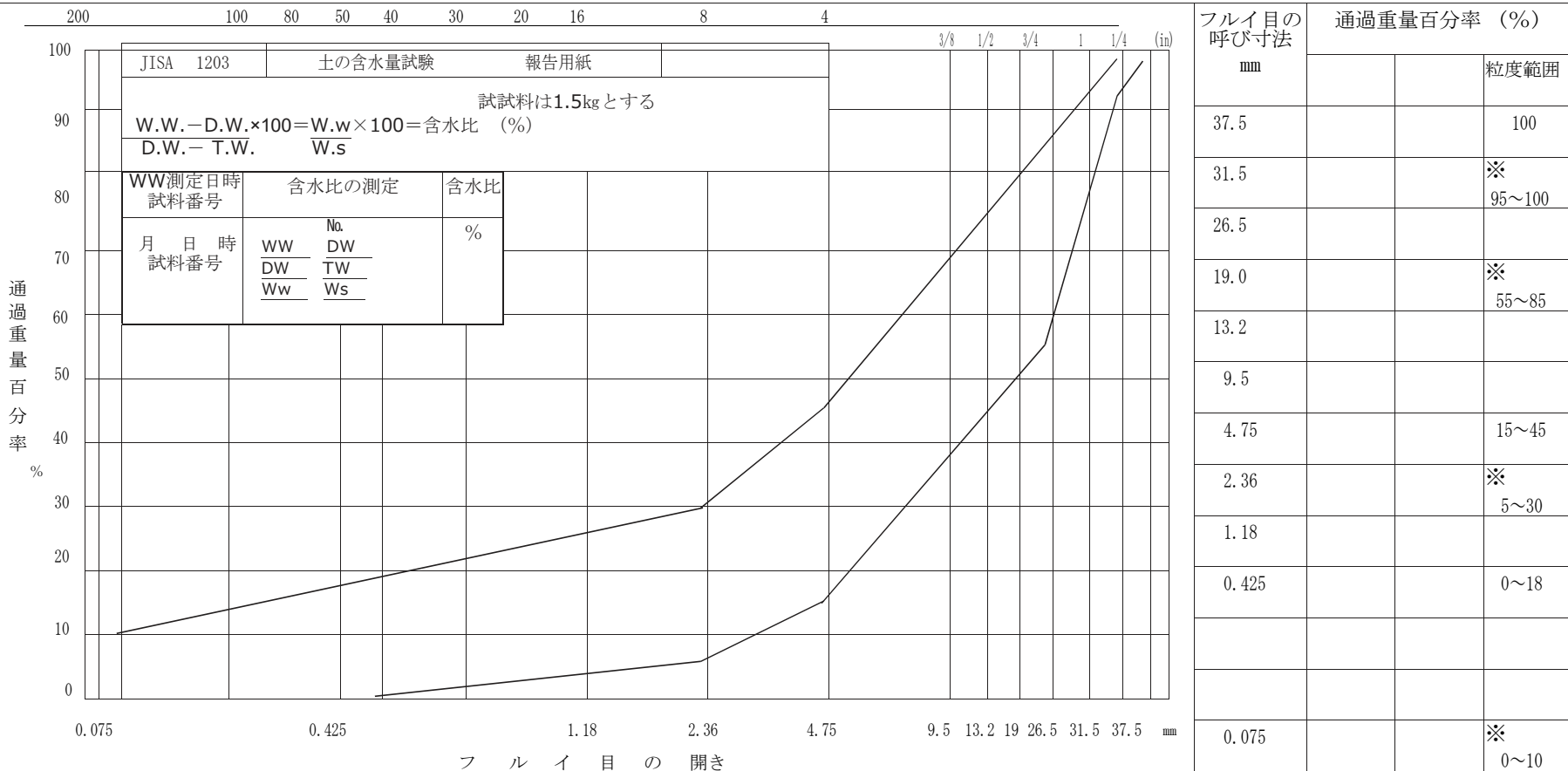
試 験 結 果	
視 察 展 開 図	<p>No.      No.      No.      No.      No.      No.      No.</p>
	<p>No.      No.      No.      No.      No.      No.      No.</p>
視 察 記 事	
異 状 箇 所 の 処 置	

様式 10-1

		現場における土の乾燥単位体積重量測定用紙			記録用紙	
測定者		測定日年月日				
調査名・目的		使用材料名			産	
施工場所						
測定場所	工種区分					
	測定番号					
	転圧作業日					
砂体の積単重量	① キャリブレーション容器の重量 (g)					
	② キャリブレーション容器に砂を満たしたときの重量 (g)					
	③ 砂の単位体積重量 (g/cm <sup>3</sup> ) ②-①/キャリブレーション容器					
掘り取った穴の容積	④ 試験前 (砂+キャリブレーション容器) 重量 (g)					
	⑤ 試験後 ( " + " ) " (g)					
	⑥ ベースプレート中の砂の重量 (g)					
	⑦ 穴につめた砂の重量 (④-⑤-⑥) (g)					
	⑧ 掘り取った穴の容積 ⑦/③ (cm <sup>3</sup> )					
湿潤密度	⑨ (湿潤試料+容器) 重量 (g)					
	⑩ 容器の重量 (g)					
	⑪ 湿潤試料の重量 ⑨-⑩ (g)					
	⑫ 湿潤密度 ⑪/⑧ γ <sub>t</sub> (g/cm <sup>3</sup> )					
含水比及乾燥密度	⑬ (乾燥試料+容器) 重量 (g)					
	⑭ 容器の重量 (g)					
	⑮ 乾燥試料重量 ⑬-⑭ (g)					
	⑯ 全体含水量 ⑮-⑪ (g)					
	⑰ 全体含水比 (⑯/⑮) ×100 (%)					
	⑱ 乾燥密度 ⑮/⑧ (g/cm <sup>3</sup> )					
	⑲ 最大乾燥密度 γ <sub>d</sub> (g/cm <sup>3</sup> )					
	⑳ 締固め度 ⑱/⑲ (%)					
	平均値					

下層路盤用クラッシャーランの粒径加積曲線図

試料番号 \_\_\_\_\_ クラッシャーランの産地 \_\_\_\_\_ 産 \_\_\_\_\_ 試験年月日 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日  
 調査名・目的 \_\_\_\_\_ クラッシャーランの規格 \_\_\_\_\_ C-30 作成者 \_\_\_\_\_  
 試料採取場所 \_\_\_\_\_ ふるい分け試験番号データシート No. \_\_\_\_\_ ※印の粒径について、ふるい分け試験を行なう。



--	--	--	--

様式 10-3

様式一覧表

上層路盤用粒調碎石の粒径加積曲線図				試験 報告	用紙
試料番号		粒調碎石の産地		試験年月日	
調査名・目的		粒調碎石の規格		作成者	
試料採取場所		ふるい分け試験番号データシート		No. _____ ※印の粒径について、ふるい分け試験を行なう。	

通過重量百分率 (%)	フルイ目の呼び寸法 mm	
	通過重量百分率 (%)	粒度範囲
100	37.5	100
90	31.5	※ 95~100
80	26.5	
70	19.0	※ 60~90
60	13.2	
50	9.5	
40	4.75	30~65
30	2.36	※ 20~50
20	1.18	
10	0.425	10~30
0	0.075	※ 2~10

通過重量百分率 %

フルイ目の開き

JISA 1203	土の含水量試験 報告用紙													
試料は1.5kgとする														
$\frac{W.W. - D.W.}{D.W. - T.W.} \times 100 = \frac{W.w}{W.s} \times 100 = \text{含水比 (\%)}$														
WW測定日時 試料番号	含水比の測定	含水比												
月 日 時 試料番号	<table style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">No.</td> <td style="width: 33%;">DW</td> <td style="width: 33%;">TW</td> </tr> <tr> <td>WW</td> <td>DW</td> <td>TW</td> </tr> <tr> <td>DW</td> <td>TW</td> <td>Ws</td> </tr> <tr> <td>Ww</td> <td>Ws</td> <td></td> </tr> </table>	No.	DW	TW	WW	DW	TW	DW	TW	Ws	Ww	Ws		%
No.	DW	TW												
WW	DW	TW												
DW	TW	Ws												
Ww	Ws													

様式-15

アスファルト合材の管理試験					
路線名	工事施工箇所			試験者	
年 月 日	アスファルトケット ル中の温度℃	骨材温度	出荷時温度	転圧前合材温度℃	備考

様式一覧表



基準密度測定表										
路線名		工事施工箇所				試験者				
供試体 番号	混合率 %	成型 月日	試験 月日	厚さの測定		基準密度の測定				備考
				厚さ cm	平均 cm	A gr	B gr	C gr	$\frac{A}{B-C}$	
										6 個の平均値

A: 供試体の乾燥重量 (gr)

B: 水中測定後供試体表面の水分をぬぐいとったときの空中重量 (gr)

C: 供試体の水中重量 (gr)

配 合 設 計 決 定 表

建設工事名: \_\_\_\_\_

建設工事所: \_\_\_\_\_

合 材 種 別: \_\_\_\_\_

安	定	度	kg					
フ	ロ	ー	値	1/100cm				
空	隙	率	%					
飽	和	度	%					
基 準	ア	ス	フ	ァ	ル	ト	量	%
基	準	密	度	g/cm <sup>3</sup>				
粒 度	26.5m/m		%					
	19.0 "		%					
	13.2 "		%					
	4.75 "		%					
	2.36 "		%					
	0.6 "		%					
	0.3 "		%					
	0.15 "		%					
	0.075 "		%					

アスファルトの抽出試験 (ソックスレー法)		試験 用紙 報告		
建設工事名 _____	試年月日 _____ 年 月 日			
工事施工箇所 _____	測定者 _____			
混合物の種類 _____	ろ過装置の種類 _____			
受注者名 _____	溶剤の種類 _____			
試験測定番号		1	2	3
① 容器の重量(g)				
② (容器 + 試料) 重量(g)				
③ 試料重量(g)	②-①			
④ 円筒ろ紙の乾燥重量(g)				
⑤ (抽出後の乾燥骨材 + 容器) 重量(g)				
⑥ 容器重量(g)				
⑦ 抽出後の骨材重量(g)	⑤-⑥			
⑧ 抽出後円筒ろ紙の乾燥重量(g)				
⑨ 円筒ろ紙に付着したフィラーの重量(g)	⑧-④			
⑩ 全抽出骨材重量(g)	⑦+⑨			
⑪ アスファルト重量(g)	③-⑩			
⑫ アスファルト含有率(%)	⑪/③×100			
⑬ 平均値	基準値			
抽出骨材のフルイ分け試験 (2.36mm及び0.075mmフルイ通過骨材重量百分率)				
⑭ 容器または0.075mmフルイの重量 (g)				
⑮ 水洗い前(骨材+容器または0.075mmフルイ)重量 (g)	⑦+⑭			
⑯ 水洗い後 ( " ) 乾燥重量 (g)				
⑰ 0.075 mm フルイ通過骨材重量 (g)	⑮-⑯+⑨			
⑱ 0.075 mm フルイ通過重量百分率 (%)	⑰/⑩×100			
⑲ 平均値	基準値			
⑳ 2.36 mm フルイ残留骨材重量 (g)				
㉑ 2.36 mm フルイ通過骨材重量 (g)	⑩-㉑			
㉒ 2.36 mm フルイ通過骨材重量百分率 (%)	㉑/⑩×100			
㉓ 平均値	基準値			



JIS A 1112  
まだ固まらないコンクリートの洗い分析試験

建設工事名 \_\_\_\_\_ 受注者名 \_\_\_\_\_

工 種 名 \_\_\_\_\_ 測 定 者 \_\_\_\_\_

測定番号				
項 目				
試料の空中重量	(g)			
試料の水中重量	(g)			
試料の総体積	(g)			
砂の水中重量	(g)			
砂利の水中重量	(g)			
砂の比重	(g)			
砂利の比重	(g)			
試料含有量	セメント	(g)		
	砂	(g)		
	砂 利	(g)		
	水	(g)		
単位量換算	セメント量			
	細骨材量			
	粗骨材量			
	単位水量			
(kg/m <sup>3</sup> )	水セメント比 (%)			

〔注〕 砂：4.75mmフルイを通過し、0.15mmフルイに止まるもの  
 砂利：4.75mmフルイに止まるもの

$\bar{x}$ -R管理データシート(1)

名 称		建設工事名		期 間	自	
品質・特性		出張所名			至	
測定単位		日標準量		受注者		
規格	上限値	試 大 小 さ		現場代理人		
限界	下限値	料 間 隔		測定者		
設計基準値		作業機械名		測定者		

月 日	組の 番号	測 定 値					計 $\Sigma x$	平均値 $\bar{x}$	範囲 R	$\bar{x} \pm A_2 \cdot \bar{R} =$			
		$x_1$	$x_2$	$x_3$	$x_4$	$x_5$				$D_4 \cdot \bar{R} =$	$\bar{x} =$	$\bar{R} =$	
	1												
	2												
	3												
	4								平均	$\bar{x} =$			
	5								累計				
	小計								小計				
	6												
	7								$x \pm A_2 \cdot \bar{R} = D$				
	8								$D_4 \cdot \bar{R} =$				
	9								平均	$\bar{x} =$		$\bar{R} =$	
	10								累計	$\bar{x} =$			
	小計								小計				
	11												
	12								$x \pm A_2 \cdot \bar{R} = D$				
	13												
	14								$D_4 \cdot \bar{R} =$				
	15												
	16												
	17												
	18												
	19								平均	$\bar{x} =$		$\bar{R} =$	
	20								累計				
	小計								小計				
記事										n	$d_2$	$A_2$	$D_4$
										2	1.13	1.88	3.27
										3	1.69	1.02	2.57
										4	2.06	0.73	2.28
										5	2.33	0.58	2.11

- (注) 1. 規格限界、設計基準値は設計図書に定められた値を記入する。  
 2. 管理限界線の引き直しは5-5-10-20方式による。

—...  
 —.....  
 —.....  
 —.....

(備考) — 管理限界の計算のための予備データの区間  
 ...上記の管理限界を適用する区間を示す。

3. 21組~40組までは、別に新しいデータシートに記入する。以下20組ごとと同様とする。

$\bar{x}$ -R管理データシート(1)の2

月 日	組の 番号	測 定 値					計 $\Sigma x$	平均値 $\bar{x}$	範囲 R			
		$x_1$	$x_2$	$x_3$	$x_4$	$x_5$						
										$\bar{x} \pm A_2 \cdot R = D$ = $d_4 \cdot R =$		
									平 均	$\bar{x} =$	$\bar{R} =$	
									累 計			
	小計								小 計			
										$\bar{x} \pm A_2 \cdot R = D$ = $d_4 \cdot R =$		
									平 均	$\bar{x} =$	$\bar{R} =$	
									累 計			
	小計								小 計			
記 事									n	$d_2$	$A_2$	$D_4$
									2	1.13	1.88	3.27
									3	1.69	1.02	2.57
									4	2.06	0.73	2.28
									5	2.33	0.58	2.11

(注) 1. 管理限界線の引き直しは5-5-10-20-20方式による。

—.....  
 —.....  
 —.....  
 —.....

(備考) — 管理限界の計算のための予備データの区間  
 ... 上記の管理限界を適用する区間を示す。

2. 以下、最近の20組(平均値 $\bar{x}$ を1箇とする)のデータを用い、次の20箇に対する管理限界とする。





様式 15-4

x-Rs-Rm管理データシート

名 称		建設工事名				受注者名							
品質・特性		出張所名				測定者							
測定単位		日標準量				測定者							
規格 限界	上限値	試料		大 き さ		測定者							
	下限値			間 隔									
設計基準値		作業機械名				測定者							
月 日	試験 番号	測 定 値				計 Σ	平均値 $\bar{x}$	移動範囲 Rs	測定値内 の範囲 Rm	$\bar{x} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$			
		a	b	c	d					$D_4 \cdot \bar{R}_s =$			
	1								$D_4 \cdot \bar{R}_m =$				
	2												
	3												
	4									平 均	$\bar{x} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$
	5									累 計			
	小計									小 計			
	6									$\bar{x} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$			
	7									$D_4 \cdot \bar{R}_s =$			
	8									$D_4 \cdot \bar{R}_m =$			
	小計									平 均	$\bar{x} =$	$s =$	$m =$
										累 計			
										小 計			
	9									$\bar{x} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$			
	10									$D_4 \cdot \bar{R}_s =$			
	11									$D_4 \cdot \bar{R}_m =$			
	12									平 均	$\bar{x} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$
	13									累 計			
	小計									小 計			
	14									$\bar{x} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$			
	15									$D_4 \cdot \bar{R}_s =$			
	16									$D_4 \cdot \bar{R}_m =$			
	17									$D_4 \cdot \bar{R}_m =$			
	18									$D_4 \cdot \bar{R}_m =$			
	19									平 均	$\bar{x} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$
	20									累 計			
	小計									小 計			
記事										n	$d_2$	$D_4$	$E_2$
										2	1.13	3.27	2.66
										3	1.69	2.57	1.77
										4	2.06	2.28	1.46
										5	2.33	2.11	1.29

- (注) 1. 規格限界、設計基準値は設計図書に定められた値を記入する。  
 2. 管理限界線の引き直しは5-3-5-7-10-10-10方式による。

—.....  
 —.....  
 —.....  
 —.....

(備考) — 管理限界の計算のための予備データの区間  
 …上記の管理限界を適用する区間を示す。

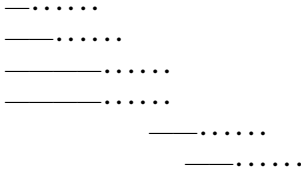
3. 以下、最近の20組（平均値  $\bar{x}$  を1箇とする）のデータを用い、次の10箇に対する管理限界とする。

様式 15-5

x-Rs-Rm管理データーシート

月 日	試験 番号	測 定 値					平均値 $\bar{x}$	移動範囲 Rs	測定値内 の範囲 Rm			
		a	b	c	d	$\Sigma$						
									$\bar{x} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_m =$			
	平均	$\bar{x} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$								
累 計												
小計												
									$\bar{x} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_s = D$ $D_4 \cdot \bar{R}_m =$			
	平均	$\bar{x} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$								
累 計												
小計												
									$\bar{x} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_m =$			
	平均	$\bar{x} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$								
累 計												
小計												
									$\bar{x} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_m =$			
	平均	$\bar{x} =$	$\bar{R}_s =$	$\bar{R}_m =$								
累 計												
小計												
記事		n	$d_2$	$D_4$	$E_2$							
		2	1.13	3.27	2.66							
		3	1.69	2.57	1.77							
		4	2.06	2.28	1.46							
		5	2.33	2.11	1.29							

(注) 1. 管理限界線の引き直しは5-3-5-7-10-10-10方式による。



(備考) - 管理限界の計算のための予備データーの区間を示す。

…上記の管理限界を適用する区間を示す。

2. 以下、最近の20組 (平均値  $\bar{x}$  を1箇所とする) のデーターを用い、次の10箇所に対する管理限界とする。

様式 15-6

x - Rs - Rm 管理図

設計基準値		建設工事名	工事
名称		日標準量	
品質特性		規格限界	上限値
測定単位			下限値
測定方法		試料	大きさ
作業機械名			間隔

測定者 \_\_\_\_\_

x																								
Rs																								
Rm																								
組の番号																								
記事及び監督員、主任監督員承認印																								

(注) 1. 管理図は、別紙 x-Rs-Rm 管理データシートから記入する。  
 2. 記事欄には、異常原因、その他必要事項を記入する。

(様式16)

鉄筋(ロックボルト工)挿入確認記録表

工 事 名 :

受 注 者 名 :

施工箇所 番号	施工確認日	施工業者名 (下請け施工の場 合は下請人名を記 入)	購入した鉄筋(ロックボルト)		確認者	備考
			長さ	径		
	令和●年●月●日	●●●(株)			主任技術者 ●● ●●	
	令和●年●月●日	(有)●●組			現場代理人 ●● ●●	
	令和●年●月●日	●●●(株)			主任技術者 ●● ●●	
	令和●年●月●日	(有)●●組			現場代理人 ●● ●●	

- (※注意事項)
- 1. この記録表は、鉄筋挿入工(ロックボルト工)の削孔穴への挿入に立会した場合に、記録するものとする。
  - 2. 削孔穴へ挿入する前には、鉄筋(ロックボルト)の長さ・径を確認し、その測定値をこの表に記録する。